

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 山口市立大殿小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者	第4学年 全3クラス 95名 第5学年 全3クラス 105名 (5年生は、車椅子バドミントン実施当日のみ参加)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラバドミントン元日本代表選手との交流を通して、個人の特性に応じてスポーツに親しみ、豊かな人生を送っていることを知り、パラスポーツに関する関心・意欲を高める。 ・障害者と健常者とがパラスポーツと一緒に楽しむことを通して、共生社会の参画者としての意識を高め、課題の解決に向けた実践的な態度を育てる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の学習として、総合的な学習の時間で福祉について学習し、通常の車椅子体験を行った。 <div data-bbox="497 1568 1337 1881" data-label="Image"> </div> <p>児童は、車椅子体験を通し、車椅子についての基本的な知識や操作方法だけではなく、車椅子利用時の課題や、相手に対する思いやりの心について学習した。</p> <p>また、体に不自由なところがあっても、車椅子を利用し、積極的に外出したり、社会参加したりすることについての大切さについて学習した。</p>

・オリンピック、パラリンピックについての歴史や意義について。
図書室のオリンピック、パラリンピックコーナーの本やインターネットを使って、オリンピック、パラリンピックの歴史や意義について学習した。

【車椅子バドミントン体験学習当日】

・元日本パラバドミントン代表選手に関する講演と体験学習を行った。
講演、体験学習「パラバドミントンを体験しよう！」

講師：パラバドミントン元日本代表

江上陽子（えがみようこ）氏 （他5名）

① 江上陽子氏の体験を聞く。



車椅子バドミントンを始めた経緯や、パラバドミントンについての説明、オリンピック・パラリンピックの説明、NPO 法人スマイルクラブの取組についてなどのお話を聞いた。

② 車椅子バドミントン体験をする。



その後、10台の競技用の車椅子に児童や教員が交代で乗り、パラスポーツを体験した。児童は、事前に通常の車椅子に乗ったり、介助したりという体験をしているが、競技用の車椅子に乗るのは初めてであった。最初は操作に戸惑うこともあったが、慣れてくると、素早い動きもできるようになった。

③ 車椅子バドミントン体験後の質問コーナー



体験後に感じた疑問や、江上さん自身の取組についての質問等に答えをいただいた。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 児童は、競技用車椅子体験を通し、通常の車椅子との違いを感じていた。競技用の車椅子では、素早い動きができたり、上半身を大きく動かしても車椅子が安定したりしていることなどによって、道具や環境が整えば、障害があっても、好きなスポーツを楽しめることを実感することができた。 • 来校された講師の中に、健常者の大学生がおられ、普段から車椅子バドミントンで、障害のある方とスポーツを楽しんでおられるとのことであった。障害者と健常者がともにスポーツを楽しんでいるという現状を知ることができた。 <p>以下、児童の振り返りを掲載する。</p> <p>『私は車椅子に乗る前に上手にできるか不安だったけど、江上選手に優しく教えてもらって、できたときはうれしかったです。この車椅子バドミントンのことを、たくさんの人に伝えていきたいと思います。』</p> <p>→体験することを通して、車椅子バドミントンに対する興味が増し、自分自身が楽しむだけでなく、伝えていきたいという意欲が見て取れる。</p> <p>『目の前で、大迫力の車椅子バドミントンを見ることができ、びっくりしました。こんなにすごいとは思いませんでした。2020年のオリンピックやパラリンピックが楽しみです。』</p> <p>→元日本代表の選手の迫力を身近で感じたことにより、オリンピック、パラリンピックに対する興味関心を高めることができていたことが見て取れた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 車椅子バドミントンの交流の前に、社会福祉協議会の方のお話を聞いたり、通常の車椅子体験をしたり、高齢者疑似体験をしたり、点字の学習をしたりするなど、福祉に関する様々な実体験を通して、子どもたちの興味や関心が高まった状態で臨むこととした。 • 図書室に、オリンピック、パラリンピックコーナーを設けることにより、児童の興味、関心を高めるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの児童に実際の車椅子バドミントンを体験してもらうため、一人当たりの体験時間が少なくなってしまうこと。 • 今回の体験が、単なる活動に終わらないよう、今後の学習や生活においても、オリンピックやパラリンピックへの興味、関心が継続して続くような取組の工夫が必要である。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度も4年生を対象に総合的な学習の時間で福祉学習を位置づけ、単に福祉の視点からではなく、人生を楽しむ手段の一つとしての障害者スポーツの理解を促すような活動を行っていきたい。 • オリンピックやパラリンピックのアスリートに焦点をあてた道徳や特別活動を通して、児童自身がこれからのよりよい生き方を考え、自分の目標に向けて主体的に学ぶ姿勢を養いたい。